



# クイーン倶楽部だより 5月号

2012年

第113号

ERN 有限会社エコ・ライス新潟

新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100  
TEL 0258 (66) 0070 FAX 0258 (66) 0447  
URL http://www.eco-rice.jp/  
E-mail eco-net@nekonet.ne.jp



## フードアクション・ニッポン アワード 2011



### 泉田新潟県知事に受賞報告!

昨年12月に3部門を受賞した「フードアクションニッポンアワード2011」。少し遅くなってしまいましたが、泉田新潟県知事に受賞報告を行ってきました。

まずは作業着姿の阿部さんから受賞報告。受賞内容の「タンパク制限者向け非常食」について知事の考えを伺うと、中央防災会議で食事制限者の非常食確保を提言していただけたらと力強い言葉をいただきました。20分ほどの短い時間でしたが中身の濃い、充実した面談でした。

写真左 知事室には、10人ほどの職員の方と新聞社などのマスコミが…。泉田知事、お忙しい中大変ありがとうございました。

写真右 泉田知事がアレルギーフリーの米粉クッキーとシュークレープを試食。「美味しい!」とのお墨付きをいただきました。

ドクター  
中村の

## 健康徒然記

その15

### 体力・気力・生きがいでがん克服!



中村 信也(なかむらのぶや)  
医学博士、東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療の医学薬理研究の第一人者」として活躍中。

「がん」の講義が終わり、健康徒然記の記事を書かねばならないと机に向かった。タイトルが決まらず、気晴らしに目の前の新聞を手にした。ある記事が目飛び込み思わず姿勢を正した。記事は「喉頭がんの手術を回避、死守した声で後進指導」であった。元ボクシング東洋ミドル級王者のカシアス内藤氏のがん闘病記であった。彼については、トレーナーのエディ氏を猛烈に尊敬して、病気に伏せた彼を引き取り死に水を取ったというエディの訃報記事を読んだことがある。

氏は喉頭がんと診断され、余命3ヶ月とがん専門病院で宣告された。氏はエディ氏の教えを伝えるべきジムを開くことが長年の悲願であったので、宣告時には死の恐怖よりジムの作れなくなるのが恐怖だった。手術を強く勧められたが、声を失えば指導できないと拒否、放射線治療と抗がん剤の副作用と戦い、まずは退院した。

「たとえ一日でもジムの開く」「時間がない」「葛藤で退院から8ヶ月で開業させ、現在は幸せだ。病気は実現を与えたという希望と勇気を与えてくれる記事である。ちょうど授業でがんの治療は生きがいがあると教えてきたので、裏付ける記事が出てきたので心弾んだ。来週「ロー」して配布したい。

がんと生きがいは非常に関係が深い。点滴石をも穿つ。強く生きたいという意思があれば天が味方してくれる。彼は気力ががんを抑え続けている。末期がんと診断されたのが平成16年1月、約4ヶ月入院。退院後平成17年2月にジム開所、現在エディの教えで指導している。末期がんと告げられてから7年余であるから、気力がいかに最大の治療薬であるか如実に物語っている。

がん治療とは抗がん剤が全てかと思いついて入っている医師は多い。強い副作用は効いている証と本気で考えている輩もいる。生まれたという強い意志(動機)は身体を持ち上げてくれる。「心の作用」を「霊性」Spiritualityと云うが、米国人は好きな言葉で何かにつけて引き合いに出される語である。

記事は、現在が心の戦いで「ロー」の状態であるが、退院後10年経てば私の勝ちと結んでいる。